

経営比較分析表（令和3年度決算）

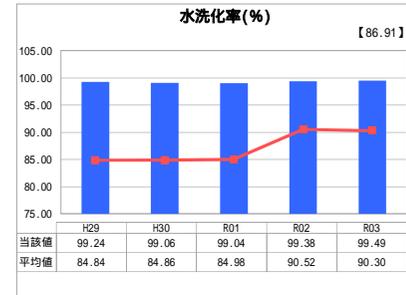
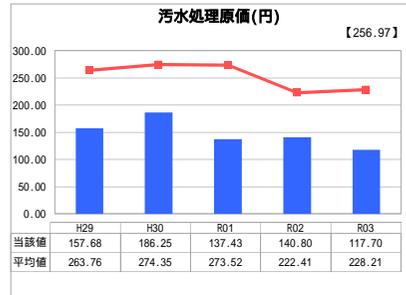
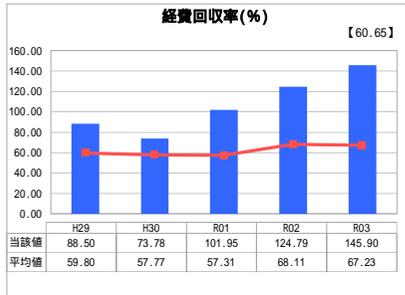
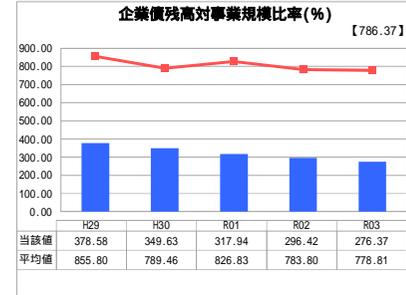
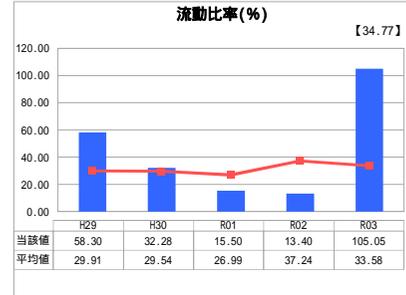
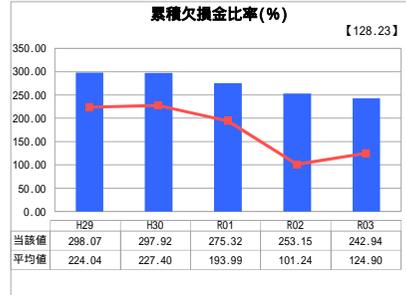
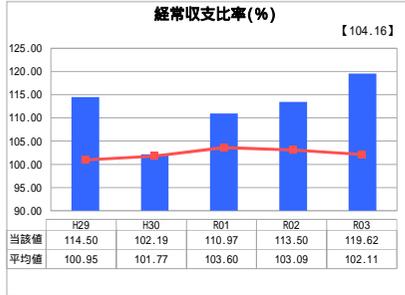
兵庫県 神河町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	66.54	21.88	81.39	4,400

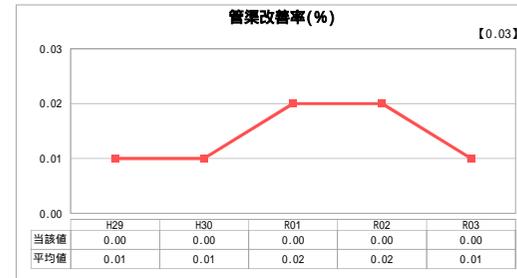
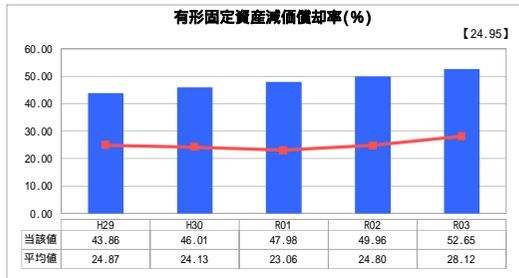
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,884	202.23	53.82
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,356	1.64	1,436.59

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

施設の統廃合により処理場1か所を廃止したことで経常収支比率は100%を大きく超え、流動比率も大幅に改善された。
累積欠損金比率については、直近年度では当期純利益を確保できているため徐々に下がっているが、依然として高い水準にある。今後も内部留保資金の運用に留意しながら引き続き累積欠損金の解消に向けて経営の健全化に努めていく。
処理場1か所を廃止したことにより、経費回収率、施設利用率の改善につながっている。

2. 老朽化の状況について

供用開始から30年が経過し、設備の老朽化が進んでいる。統廃合計画に基づき、残していく施設においては早急に長寿命化工事を進めていく必要がある。
今後、施設統廃合を計画通り実行し、効率的で持続可能な事業運営を実施する。

全体総括

当町の下水道事業は、合併浄化槽エリアを含め、全町で生活排水処理施設が整備されており、集合処理区での生活排水処理率は99.0%と高い数字で、住民の皆様にも快適な生活環境を提供している。
令和2年4月1日から下水道使用料を人頭制から従量制へと移行し、水道料金とともに県下トップクラスであり、料金の値上げは人口減少対策の妨げになることなどから難しい状況である。
下水道事業を将来にわたり安定的に継続していくため、平成29年に策定した経営戦略の見直しを行い、「神河町下水道事業経営戦略令和3年度改訂版」を策定し、健全な運営に向けてコスト意識の高揚、経費の削減、未収収納率のアップ、水洗化率のアップに努めていく。また、施設の統廃合を計画どおり実行すること、近隣市町との広域化、共同化の検討等、他の自治体の事例も参照しながら、町民にとりより良い下水道のかたちを総合的に検討する。

「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。